

第4学年1組 特別活動（学級活動）指導案

授業者 阿野 豊

展開場所 自教室

1 題材名 「自分で考えて、最善を尽くそう」

2 題材について

(1) 題材の目的と内容について

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」は、国内最大規模となるマグニチュード9.0を記録し、その直後に発生した津波とあわせて甚大な被害をもたらし、多くの人命が失われた。平日の金曜日の午後に起こった大地震は、東北地方だけでなく、われわれの住む関東地方にも今まで想定しえなかった事態を引き起こした。膨大な数の帰宅困難者が発生し、保護者への引き渡しができず深夜まで学校現場が保護する状況になったり、下校がすでに完了していた低学年の児童の安否確認、安全な保護状態の確認をしたりすることに、各学校現場は奔走することとなった。また、児童を学校で保護するか帰宅させるかの判断も各学校の地域事情の差異によってまちまちであった。

学校管理下に置いても、このような混乱が見られ、管理外の日時に「東日本大震災」クラスの地震が起こったと仮定するとさらに複雑な事情が絡み合い、その対処を完璧に行うことは難しいと考えざるを得ない。

震災の当日、釜石市立釜石東中学校の生徒たちは、必ず津波が来ると判断し、率先避難者として隣接する鵜住居小学校の児童職員に大声で非難をするよう指示を出した。鵜住居小の児童の手を取り、真っ先に避難を始めたこの行動は、地域の住民への避難喚起となり、一人の犠牲者も出さなかった。さらに彼らは、第1避難場所を良しとせず、もっと標高の高い場所を目指すという行動をとった。「今考えられる最善を尽くす。」という教えが、一人一人の生徒に十分に浸透していたからである。

私たちの地域はどうであろうか。昔から、繰り返し津波の被害を受けていた釜石市だからできたことという考えもあろう。しかし、有事の際に自分で考え判断し行動に移すという訓練は、どこの地域にも必要な訓練ではないだろうか。

防災教育で最も大切なことは、まず自分自身の安全を確保することである。本題材では、地震防災を自分の問題として意識や関心を高め、実際に地震災害が発生した場合に、「児童が様々な状況の中で、知識や経験をもとに、より適切に判断し、自分の身を守りながら迅速に行動できる力」を、つけさせたいと考えている。

(2) 児童及び家庭・地域の実態から

「東日本大震災」から3年6か月が経過し、被災地からの情報も日に日に減少している。新聞やニュースでも、取り上げられる復興の様子や震災の記憶も減っているように感じられる。「のど元過ぎれば・・・」の格言を引用するまでもないが、震災の恐ろしさを日々考えることはなくなった。

児童の意識面でも、「東日本大震災」記憶が薄れていて、当日の自分たちの状況やとった行動、保護者

の対応について、正確に述べられる子供は少なかった。千葉市の震度が5弱であり、激しい揺れや二次災害を経験していないからであろう。本題材の導入時には、大地震がどんなものであったかの写真やビデオを見せたり、体験者から話を聞いたりして、地震の怖さを少しでも感じ取らせたい。

行動面では、毎年行っている地震避難訓練の成果として、地震発生時には机の下などに入って頭を守ること、避難時には「おかしも（押さない、かけない、しゃべらない、戻らない）」が大切だと、スローガンの的につかんでいるだけである。しかし、実際に大地震が発生した場合、教師が一緒にいる授業中だけではないので、登下校中や家庭にいるときも含めて、様々な状況下でも適切に判断し迅速な行動できるようにするようにしたい。自分の考えをしっかりと持たせるための手立てを設けたいと考える。

また、保護者の地震防災に対する意識は高いとは言えず、家族での地震防災の話し合いも十分に行われていない。避難持ち出し品や備蓄品を準備している家庭も多くない。地域の関係団体は、地震防災への関心が高く、各種の会議や避難訓練を積極的に進めているが、地域の防災行事への参加に対しては消極的な家庭が多い。今回の学習をとおして、家族で地震防災に備えることや地域の防災行事にも進んで参加する大切さも学ばせたい。

（3）問題を自分のものとさせる工夫（当事者意識を持たせるシミュレーション学習の工夫）

大地震による激しい揺れや大きな地震被害を経験していない子どもたちには、災害を実感させることが難しく、災害の恐ろしさがなかなか伝わりにくい。被災経験がなければ自分の問題として、受け止める当事者意識が持ちにくく主体的な学習とはなかなか得ない。このような心情に迫るためには、体験を自分の体験と仮想して考えていくことを促す手立てが必要となる。そこで、ワークショップ型のシミュレーション学習による「クロスロード」（地震発生時の防災対応カードゲーム）を授業に取り入れることにした。

・「クロスロード」

クロスロードは、災害対応を自らの問題として考え、さまざまな意見や価値観を話し合いながら、様々な状況下においてよりよい行動ができることを目的としている。既存のクロスロードは、一般成人用として開発されたものであるため、小学校高学年児童を対象としたカードを作成した。作成にあたっては、学校や地域の実情や児童の実態を生かすようにした。

大地震が発生した場合、実際には様々な状況の下で、いろいろなジレンマを伴う重大な判断や決断に迫られることがある。その判断や決断をする場面をシミュレーションすることが、クロスロードでは可能になる。

実際に大地震が起きたことを想定して、ゲームを展開していくため、おのずと当事者意識を持って、どちらを選んでもリスクや犠牲を伴うことから、「決められない、迷う」といった様相で真剣に話し合いをすると考えている。

（4）指導構想

今回の学習では、1時間目で、大きな災害をもたらした阪神・淡路大震災（内陸型地震・直下型地震）や東日本大震災（海溝型地震）の写真やビデオを見せたり、経験者から話を聞いたりして、地震の怖さを感じ取らせる。また、基礎的な地震の知識（マグニチュード、震度）や校内での避難行動を扱う。

2時間目で、防災ゲーム「クロスロード」を行う。実際の災害時には、様々な状況でのジレンマを伴

う重大かつ即座に判断や決断が要求されることが多い。その判断や決断をする場面を、シミュレーションするゲームである。「クロスロード」は、あらかじめ定められた正解を学んだり、覚えたりする学習ではない。ゲームをとおして、「クロスロード」には正解がないことを学ばせながら、二者択一のジレンマを伴う選択の中で、「あちらが立てばこちらが立たず、しかもいろいろな考えの人がいる。しかし、それなりの結論を出して先に進まなければならない。」という防災の本質をとらえさせたい。

3時間目は、家庭における非常持ち出し品の準備、地震発生時に家族で集まる場所の確認、家族で外出した時の避難行動、家族で防災会議を行う必要性などを学習して、自分の安全だけでなく家族の安全も守られるようにしたい。また、学習した子どもをとおして、家庭での防災意識が高まるようにしたいと考えている。

3 児童の実態（男子14人、女子15人 計29人） 平成26年 9月 6日実態調査

(1) 【知識面】

①「震度」と「マグニチュード」の意味や知っていることを書きましょう。

○震度

- ・わからない 11名 (38%)
- ・ゆれかた 8名 (28%)
- ・地震の大きさ 7名 (24%)

○マグニチュード

- ・わからない 24名 (83%)
- ・地震の大きさ 1名 (3%)
- ・地震の規模 2名 (7%)

②地震がどうして起きるのか知っていますか。

- ・知らない 20名 (67%)
- プレートが動く 7名 (24%)
- 地面がゆるむ 1名 (3%)

(2) 【意識面】

③大きな地震が発生したら、こわいですか。

- ア 少しも怖くない 0名
- イ 少しだけこわい 8名 (28%)
- ウ どちらでもない 3名 (10%)
- エ こわい 9名 (31%)
- オ かなりこわい 9名 (31%)

(3) 【思考判断力】

④大きな地震が、登校の途中に起きたら、あなたのすることは？

- ・家へ 7名 (24%)
- ・学校へ 7名 (24%)
- ・場所を移動 9名 (31%)
- ・その場で保身 4名 (14%)
- ・人のいるところへ 2名 (7%)
- ・無回答 1名 (3%)

⑤大きな地震が、下校の途中に起きたら、あなたのすることは？

- ・家へ 7名 (7%)
- ・学校へ 7名 (7%)
- ・場所を移動 5名 (17%)
- ・その場で保身 3名 (10%)
- ・人のいるところへ 2名 (7%)
- ・無回答 3名 (10%)

⑥大きな地震のあとに、危ないことや困ったりすることが起こるとしたら、どんなことですか。

<危ないこと>

- ・火災 9名 (31%)
- ・津波 9名 (31%)
- ・地割れ 7名 (24%)
- ・落下物 5名 (17%)
- ・建物破壊 5名 (17%)
- ・ガラス飛散 3名 (10%)
- ・液状化、電線電柱、落橋
余震、ガス (各1名)
- ・無回答 5名 (17%)

<困ること>

- ・停電 5名 (17%)
- ・断水 4名 (14%)
- ・がれき 4名 (14%)
- ・家屋損壊 4名 (14%)
- ・家族安否 3名 (10%)
- ・生活不便 3名 (10%)
- ・液状化、交通マヒ (各1名)
- ・無回答 9名 (31%)

⑦休み時間に大きな地震が発生したら、どうしますか。場面ごとに考えましょう。

<教室>

- ・机下へ 27名 (93%)
- ・校庭へ 12名 (41%)
- ・窓はなれ 1名 (3%)
- ・放送聞く 1名 (3%)

<校庭>

- ・校庭中央 11名 (38%)
- ・訓練集合場所 5名 (17%)
- ・校舎へ 3名 (10%)
- ・指示待ち 3名 (10%)
- ・教室へ 1名 (3%)
- ・無回答 3名 (10%)

ウ 廊下

- 校庭へ 9名 (43%) ○自分の教室に戻ってから校庭へ 3名 (14%)
- 近くの机にもぐり、おさまったら校庭へ 3名 (14%)
- 近くの教室へ 2名 (10%) ○壁のすみでおさまるまで待つ 2名
- 窓の近くへ、近い出口から逃げる 各1名

エ トイレ

- 揺れがおさまるまで、そこにいる 5名 (24%)
- トイレのドアを開ける 5名 (24%)
- すぐ出て逃げる 3名 (14%) ○教室へ戻り校庭へ、教室の机の下へ、すぐ校庭へ 各2

(4) 【家庭での実践】

①大きな地震が起きたときのために、家でどんな準備をしていますか。

- 災害用食料 11名 (52%) ○災害用飲料水 6名 (29%) ○懐中電灯 5名 (24%)
- ラジオ 2名 (10%)
- わからない 3名 (14%) ○ライター 1名 ○何もしていない 1名

② 家族で地震について話し合っていますか。

ア はい 9名(43%) 　　どんなことですか。

○集まる場所 3名 　○机の下にもぐる 2名 　○窓を開ける、火の元、津波 各1名

イ いいえ 12名(57%)

【実態調査の考察】

(1) 知識面について

①から「震度」と「マグニチュード」の違いをとらえている子は、いなかった。地震が起こるわけや地震の種類を知っている子はほとんどいない。また、③の地震がどうして起きるのか知っている子が3割強で、プレートの原因であることを知っていた。④の「地震の種類を知っているか」については、ほとんどの子が、知らなかった。答えは、「海溝型地震」と「内陸型地震(直下型地震)」である。そこで、地震の基礎的な知識を学ぶことを題材の導入で行い、大地震に備える学習へとつなげていきたい。

(2) 意識面について

⑤の地震に対する怖さについては、大きな地震が発生したら、怖くないと答える子どもが5割、そのうちぜんぜん怖くないと答えた子が3割ほどもいた。東日本大震災当日の稲毛区の震度が5弱であり、激しい揺れや二次災害を含めて大きな被害を経験していないからであろう。また、東日本大震災当時は、いろいろな面で怖い思いをしたことを一年半経って忘れていく子どもも多いようだ。さらに、17年前に起きた阪神・淡路大震災についても誕生する前の地震のために、地震や災害の怖さは、よくわからないようである。実際、震度6以上の大きな地震であれば、人は立つことさえできなくなり、周りの家具などが倒れるだけでなく、物が落下して来たり、建物などが倒壊したりして大きな恐怖感をいただくことになる。そこで、大地震の被害の様子を写真やビデオを見せたり、体験者から話を聞いたりして、地震の怖さを感じ取らせたい。

(3) 思考判断力について

⑦⑧の大きな地震が登下校中に起きたら、学校に行くかと答えた子が4～5割いた。避難場所となる学校を選ぶ子が多かったのであろう。自宅か学校か近いほうへ行くかと答えた子が2割ほどいた。今回の学習では、周りの地震の被害状況を見て、自宅か学校かを選ぶ思考判断力をつけさせていきたい。

⑨の大きな地震が登下校中に起きたら、建物やブロックが倒れると答えた子が3割と少ない。木や電柱が倒れると思っている子が5割強である。しかし、ガラスが割れると答えた子は1名しかいない。あやめ台小地区には、一戸建ての近くを通学路としている子どもも多く、ブロック塀の倒壊やがけ崩れ、団地の窓ガラスの落下などの危険性を再認識させていきたい。

⑩の「大きな地震のあとに、危ないことや困ったりすること」では、津波と答えた子が3割近くいる。東日本大震災の津波の様子をテレビで見たときの印象が強く、恐怖感をもったからであろう。あやめ台小は、標高が約30mと津波に対しては、ハザードマップからも危険性は低い。また、停電(ガスも含めて)が2割と少ない。さらに、断水すると答えた子が1名ということから、断水で困

った経験がないからであろう。大きな地震後、困ったことでは、断水したことである。風呂に入れない、洗濯ができない、トイレの水が流せない、飲み水が足りないなどの資料【地震から1週間後くらいで困ったこと（阪神・淡路大震災の被災者へノアンケート）】を子どもに見せて普段からの備えの必要感を高めていきたい。

⑩の大きな地震が発生したら、ほとんどの子が、物が落ちる、物が倒れる、物が割れると答えているにもかかわらず、⑬では、家に一人にいるとき、机の下にもぐると答えた子は3割強と少ない。自宅にいて親が留守中であっても「自分の身は、自分で守る」という意識で、「すぐに机などの下にもぐり」「出口を確保する」「頭を守る」の3点を再確認させていきたい。

⑭の休み時間に大きな地震が発生したときについては、教室での避難訓練の経験が生かされておらず、机の下にもぐることが約6割、校庭に行くが約3割であった。大事なものは、「すぐに机などの下にもぐり頭部を守る」また、「転倒しないように体を低くしたり、つかまったりする」行動をとることである。各場所においても、基本的には、これらのことを考えて行動できるようにしたい。

(4) 家庭での実践について

⑮の家族で外出した時の避難行動についてさまざまな考えが出ている。何が適切な行動であるかは状況によって違ってくる。高学年ともなると、家族と離れて行動することが多い。さまざまな状況下でいかに「自分の身は、自分で守る」という行動がとれるかが大事となる。さまざまな意見を出し合いながら、状況に応じた判断ができるようにさせたい。

⑯の「大きな地震が起きた時のために、家でどんな準備をしているか」では、食料品が約5割、飲料水が3割弱と少ない。さらに懐中電灯が2割、ラジオに至っては、1割である。わからない、何もしていない子を含めると約2割になる。家族で地震について話し合っ「いる」「いない」がほぼ半数である。いつ起きてもおかしくない大地震に対して、家族で話し合う必要性をつかませるとともに、チェックリストを作成して、防災の意識を高めていきたい。特に、家族で、いつでも避難できるように防災グッズや非常食等（3日程度）の備えもさせたい。

大地震を経験していない子どもたちに、防災ゲーム「クロスロード」や「DIG訓練」を行うことで大地震時、様々な場所での避難行動を話し合わせたい。避難行動に対する考え方が広がり、災害状況に応じて、適切な避難行動ができるような子どもたちを育てていきたい。さらに、家庭と連携しながら、家庭における防災意識の高揚を図り、家族で防災会議を開き、避難集合場所、防災グッズ、非常持ち出し品などの備えができるようにしたい。

4 題材の目標

- 地震災害に関する基本的な知識を習得する。
- 自分の命を守るために、周りの状況に応じて、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成する。
- シミュレーション学習である「クロスロード」をグループで協力して行い、地震防災の問題を自分のものとしながら、いつ、どこで大地震に遭っても自分の考えもち行動しようとする態度を身につける。
- 家族や身近な人々の安全も考えて、進んで協力しようとする態度を身につける。

5 題材構成（3時間扱い）

学習の目的	学習内容と活動	時配
地震の起こり方や種類を知るとともに、学校内外で地震が発生した場合の避難行動を考える。 地震の怖さを写真・ビデオ・体験者の話から感じ取る。	○地震の起こり方と種類を知る。 ○マグニチュードと震度の意味を知る。 ○地震による一次災害と二次災害を知る。 ○学校や家庭で大きな地震が発生した場合の適切な避難行動を考える。	1
「クロスロード」を行い、先生がいない校内の場所、登下校中、家族が留守の在宅中などで、大地震が発生した時に、様々な状況下で決断を要する場面について話し合い、思考・判断・実践力を高める。	○防災ゲーム「クロスロード」の必要性やルールをつかむ。 ○「クロスロード」を行い、大地震の時、校内、下校中、家族が留守中などに、ジレンマを伴う決断をする場面を、グループの友達と協力しながらシミュレーションする。 ○自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら、よりよい判断や行動ができるようにする。	1 (本時)
災害時の避難行動を家族で話し合ったり、非常持ち出し品を準備したりする必要性をつかむとともに、家族で外出した時の避難行動を身につける。	○災害時の避難場所（集合場所）を決めたり、非常持ち出し品を準備したりする必要性を考える。 ○家族で外出した時の避難行動を考える。	1

5 本時の指導（2／3）

ねらい：「クロスロード」を行い、先生がいない校内の場所、登下校中、家族が留守の在宅中などで、大地震が発生した時に、様々な状況下で決断を要する場面について話し合い、友達の様々な意見や価値観を聞いて、いざという時の思考・判断・実践力を高める。

< 展開 >

時配	学習活動	○教師の支援・指導上の留意点	資料
導入 5分	<p>○前時を想起して、身を守る安全行動を確認する。</p> <p>○防災ゲーム「クロスロード」を行う必要性と意義を聞く。</p> <p>○防災ゲーム「クロスロード」のルールを確認する。</p>	<p>○学校内外で、大地震が発生した場合の避難行動を想起させる。</p> <p>○地震から身を守るための第1段階「シェイクアウト」の3つの安全行動を確認させる。また、「出口を確保する。」「危険なものも確認させる。</p> <p>○東日本大震災で、子どもが適切な自己判断で命を守ったことから、「クロスロード」を行って、自分の考えを持ったり、友達の考えを聞いたりすることが大切であることをつかませる。</p> <p>○問題カードに対して「Yes」か「No」を選ぶ。→「Yes」「No」カードを裏向けで出す。→先生の合図で、一斉にカードをオープンする。 ・多数意見だった人は青カードがもらえる。 ・1人だけの意見の人は、金カードがもらえる。</p> <p>○グループで一人一人「Yes」「No」の理由を述べ合う。→すべての問題カードを終えたときに、一番多くのポイントカードを持っていた人が勝ちとなる。</p> <p>○ルールを書いた資料を用意し、ルールを思い出し、すぐにゲームができるようにする。</p>	<p>○掲示物</p> <p>○様々な状況下での決断が迫られる「クロスロード」の資料</p> <p>○問題カード ○青カード ○金カード</p> <p>○ルールと実施方法の掲示物</p>
展開 30分	<p>○本時の学習内容を知る。</p> <div data-bbox="363 1659 1177 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>防災ゲーム「クロスロード」をしよう。 ゲームを通して、自分の判断ができるようにしよう。</p> </div> <p>○グループのリーダーが先生の所に1枚目の問題カードを取りに来る。</p>	<p>○どのグループも同じペースで話し合えるように、問題カードは1枚ずつ教師が配るようにする。(問題は4問)</p>	

<p>終末 10分</p>	<p>○リーダーが1枚目の問題を読む。</p> <p>○全員が「Yes」「No」カードを自分の前に裏向けで出す。</p> <p>○先生の合図で、一斉にカードをオープンする。</p> <p>○多数意見だった人は青カードをもらう。ただし、グループの中に1人だけ違った意見の人は金カードをもらう。</p> <p>○グループで、一人一人に「Yes」「No」の理由を聞く。</p> <p>○2・3・4問も同様に行う。</p> <p>○グループごとに一番多くのポイントカードを持っていた人に拍手をする。</p> <p>○本時を振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <p>○全員で、今日のゲームを振り返って、努力やよい点を認め合う。</p> <p>○次の授業の予告をする。</p>	<p>○1枚につき5分間のゲームとする。</p> <p>○多数派、少数派が決まるように、奇数人数でのグループにする。</p> <p>○正解はないので、一人一人の意見を大事にして、意見を認めていくことで、いろいろな考えを出させる。友達の意見を最後まで温かく聞くようにさせる。</p> <p>※「二者択一のジレンマを伴う選択の中で、それなりの結論を出して先に進まなければならない。」という防災の本質をとらえさせる。</p> <p>○自分の考えを持つことの大切さや友達の考えを尊重するように働きかけたり、助言したりする。また、自分の考えがうまく持てない子どもにも、具体的な助言を行う。</p> <p>○カードにうまく書けない子には、個別に助言する。</p> <p>○グループの代表1人に、振り返りを述べてもらい、各グループの努力やよい点を認めるようにする。</p> <p>○家庭での防災の準備について学習することを伝える。</p>	<p>○振り返りカード</p>
-------------------	---	--	-----------------

第1問

休み時間になり、2階の図書室に本を返しに行きました。

早く来すぎたのか、係りの人も先生も来ていませんでした。

急に、床が波打つような大きな地震が起こりました！！机の下にもぐり、ゆれがおさまるのを待ちました。

大きなゆれは、おさまりましたが、小さなゆれは続いていました。大急ぎでとびらを開け、ろうかに出ました。たおれた本だな、ちらばる本、ゆかにはわれたガラスがいっぱいです。まわりにはだれもいません。

ろうかやかいだんのかべはくずれ、土ぼこりであたりはよく見えません。電とうも消えています。てんじょうのパネルが落ちているところもあります。

その時、また大きなゆれが起きました。

あなたは、そのまま校舎内にとどまりますか？

YES or NO

第2問

1月の寒い日。家族は用事で出かけていたので、わたしは一人で、るす番をしていました。

あたりも暗くなってきたので、部屋の明かりをつけ、テレビを見ていました。

急に大地震が起こりました！！わたしは、すぐにテーブルの下にかくれました。今までに体験したことのない、すさまじい揺れです。ゆれが小さくなったので、テーブルから出ました。窓ガラスが割れ、食器だなや家具もたおれていました。テレビもたおれていました。部屋の明かりも消えて、真っ暗です。

そのうち、外から消防車のサイレンが聞こえてきました。両親に何度も連らくをしようとはしますが、電話もけいたい電話も使えません。

また、大きなゆれが起きました。

そのまま、あなたは家で待ちますか？

YES or NO

第3問

学校が終わってひとりでの帰り道、家と学校のちょうど真ん中あたりを歩いていました。

急に、道路が波打つような大きな地震が起こりました！！わたしは、歩道の中央で大きなゆれがおさまるまで、しゃがんで待っていました。電信柱がかたむき、電線がバチバチ音を立てて切れていきます。

ブロックべいやかんばんがたおれています。高速道路をささえる柱もおれているし、道路には大きな地割れもできています。近くに、だれもいません。

あなたは、家に向かいますか？

YES or NO

第4問

今日は予約していた本を取りに行くため、バスに乗って稲毛駅まで来ました。

バスをおりて本屋さんに向かって歩き始めたその時、今までに体験したことのないゆれが起きました。その場にふせて、おおきなゆれがおさまるまでがまんしました。

どうしていいかわからずにいると、あたりはがれきの山です。道路はあちこちに穴が開き、歩道と車道の区別がつきません。電話もけいたい電話もつながりません。

近くにいた人が、「西小中台までは2 Kmぐらいだから、ゆっくり歩いても1時間はかからないはず。歩いて帰れるだろう。」とっているのが聞こえました。

あなたは、家に向かいますか

YES or NO

クロスロードふりかえり

4年 組 氏名 ()

友達の考えを聞いて「なるほど」と感じたり、「それは考えなかった。」というようなことをメモして、自分の考えやはんだんにいかそう。

第1問 校舎の中にとどまる → YES ・ NO

第2問 家で待つ → YES ・ NO

第3問 家に向かう → YES ・ NO

第4問 家に向かう → YES ・ NO

クロスロードゲームの進め方

1. 5人組で行う 1人ずつ YES ・ NO のカードを持つ
 2. 問題文は、1問ずつ配られる
 3. 5人全員でその問題を読み、問いかけに対して
・そうするなら YES (ハイ) ・そうしない、別のことをするなら NO (イイエ)
のカードをつくえにふせて出す
- ※ YES、NOを決めるときに大切なこと
- ア、 自分自身として考えを決める
 - イ、 家族・友達など、他の人のことを考えて決める
 - ウ、 危険・安全など、周りの様子を考えて決める
 - エ、 決めた理由をグループのみんなに必ず発表する
4. 先生の合図で、いっせいにカードを表にする
 5. 5対0・・・5人に青カード（1点）が配られる
4対1・・・4人に青カードが配られる
1人は、たった1つの貴重な考えなので、
金カード（3点）が配られる
3対2・・・3人に青カードが配られる
 6. 1人ずつ順番に、なぜそのようにするのか理由をつけて発表する
友達と同じ色のカードでも、必ず自分の理由を発表する
 7. 友達の考えや行動について、質問や賛成反対の意見を出し合って話し合う
 8. 話し合いが終わったら、先生の指示を待ち、次の問題に進む
 9. 4つの問題が終わったら、カードの枚数と色を調べて得点を付ける
もっとも得点が高い人が、グループの優勝者となる

※ 自分にとって、一番良い行動は何かをいつも考えよう！